

くれよん うみ組

8月は不安定なお天気が続きましたが9月は残暑が残るとのことです。まだまだ暑い日が続きそうですね。うみ組の子どもたちは虫探しや、朝顔や絵の具を使っての色水遊び、とうもろこしの皮むき等々夏ならではの遊びを満喫していました♪ご家庭での夏休みも楽しかったようで休み明けはお互いのお土産話がとまらず「おあつまりでお話したいなあ」とみんなの前で話をすることも楽しんでいました😊9月も生活リズムを整えて暑さに負けず元気に過ごしていきたいですね。今月は自分で考えて行動するをテーマにしていますがうみ組では遊びはもちろん生活の中でもまずは自分でかんがえよう！自分でやってみよう！を大切に過ごしています。そして自分で考えて行動する場面がどんどん増えてきています。保護者会でゆっくりお話しさせていただけたらと思っていますのでおうちでのエピソードもぜひ聞かせて下さいね(^_^)♪



自分で考えて行動する力を育む＝思考力：自立心

幼児期の終わりに育ててほしい「10の姿」の中に「思考力の芽生え」という項目があります。難しそうな言葉ですが、これは遊びや生活の中で「どうすればうまくいくかな？」と子ども自身が自問自答し、工夫するプロセスのことです。たとえば積み木なら「崩れないように高くするには？」「見本と同じ形にするには？」、友だちとの関わりなら「なんて言えば仲間に入れるかな？」と考える姿すべてが「思考力の芽生え」につながっています。

日常のトラブルでも同じです。「お茶をこぼした！」という時、大人がすぐに拭いてあげるのは簡単ですが、私たちはあえて一步引き、子どもからの発信を待つようにしています。

「あ、こぼしちゃった...」「雑巾持ってくる！」「拭くのお手伝いするよ」と、先回りしないことで子どもが自分の頭で考え状況を判断し、行動に移す大切な「時間（間）」が生まれます。保幼小連携の研修では、小学1年生の担任の先生から「先生、これ正解ですか？」「何が正解ですか？」と答えを求める子や指示待ちの子が多いというお話がありました。周囲の大人が先回りして「こうしなさい」と指示を出しすぎると、自分で考える機会を奪ってしまいます。失敗も含めて「自分で考えて試せた！」という達成感こそが、小学校以降の自律的な学びや自己肯定感の土台になります。

子どもたちが困っている時、ほんの少し距離を置いて見守り、一生懸命考えたプロセスをしっかりと認めていきたいと思います。

【この姿に関わる「10の姿」】

★ 思考力の芽生え（どうすればよいか判断し、方法を考える）

★ 自立心（自分で考えて判断し、主体的に行動する）